



# VMwareのファイルとフォルダをリストアする

## NetApp Backup and Recovery

NetApp  
June 02, 2026

# 目次

VMwareのファイルとフォルダをリストアする	1
ゲストファイルとフォルダを復元する際の要件と制限	1
ゲスト リストアのワークフロー	1
ゲスト ファイルとフォルダをリストアするための前提条件	1
ゲスト ファイル リストアに関する制限事項	2
仮想ディスクからファイルとフォルダを復元する	3
仮想ディスクからファイルとフォルダを復元する	3
アクティブな VMDK マウントセッションを表示する	8
ゲストファイルの復元のトラブルシューティング	8
ゲスト ファイル リストア セッションが空白	8
ゲスト ファイル リストアのディスク接続処理が失敗する	8
ゲスト ファイル リストア セッションを中断してもバックアップが切断されない	8

# VMwareのファイルとフォルダをリストアする

## ゲストファイルとフォルダを復元する際の要件と制限

WindowsまたはLinuxゲストOS上で、仮想マシンディスク（VMDK）からファイルやフォルダを復元できます。

### ゲスト リストアのワークフロー

ゲストOSリストア処理には、次の手順が含まれます。

#### 1. 接続

仮想ディスクをゲストVMまたはプロキシVMに接続し、ゲスト ファイル リストア セッションを開始します。

#### 2. 待機

参照および復元する前に、接続操作が完了するまで待機してください。アタッチ操作が完了すると、ゲストファイルの復元セッションが自動的に作成されます。

#### 3. ファイルまたはフォルダの選択

仮想ディスクファイルを参照または検索し、復元するファイルまたはフォルダを1つ以上選択します。

#### 4. リストア

選択したファイルまたはフォルダを指定した場所にリストアします。

### ゲスト ファイルとフォルダをリストアするための前提条件

VMDKからファイルやフォルダをリストアする前に、すべての要件を確認してください。

- VMware Toolsがインストールされ、実行されている必要があります。

NetApp Backup and Recoveryは、VMwareツールの情報を使用して、VMwareゲストOSへの接続を確立します。

- 復元元のバックアップ スナップショットと VMDK を知っておく必要があります。
- 接続する仮想ディスクは、NetApp Backup and Recoveryバックアップに含まれている必要があります。

復元するファイルまたはフォルダを含む仮想ディスクは、NetApp Backup and Recoveryを使用して実行された VM バックアップに含まれている必要があります。

- プロキシVMを使用するには、プロキシVMを設定する必要があります。

仮想ディスクをプロキシVMに接続する場合は、接続およびリストア処理を開始する前にプロキシVMを設定しておく必要があります。

- 英語のアルファベット以外を使った名前のファイルの場合は、単一のファイルとしてではなく、ディレクトリにリストアする必要があります。

日本語の漢字など、アルファベット以外の名前のファイルをリストアするには、ファイルが配置されているディレクトリをリストアします。

ゲストOSのサポートに関する最新情報については、"[NetApp Interoperability Matrix Tool \(IMT\)](#)"を参照してください。

## Windowsゲスト

- Windows ゲスト OS は Windows Server 2008 R2 以降を実行している必要があります。

サポートされているバージョンに関する最新情報については、"[NetApp Interoperability Matrix Tool \(IMT\)](#)"。

- ターゲット VM の資格情報には、ユーザー名が「Administrator」の組み込みドメインまたはローカル管理者アカウントが使用されます。復元操作を開始する前に、仮想ディスクを接続する VM の資格情報を構成します。アタッチ操作と復元操作の両方に資格情報が必要です。ワークグループ ユーザーは、組み込みのローカル管理者アカウントを使用できます。



組み込みの管理者アカウントではなく、VM内の管理者権限を持つアカウントを使用する必要がある場合は、ゲストVMのUACを無効にする必要があります。

## Linuxゲスト

- 以下のゲストOSディストリビューションがサポートされています：
  - Red Hat Enterprise Linux
  - Ubuntu
  - Debian
- 実行アカウントにはroot権限またはsudo権限が必要です。
- クロスVM復元（異なるLinux VMへの復元）を行う場合、ターゲットVMでSSHが実行されている必要があります。

## ゲスト ファイル リストアに関する制限事項

ゲスト OS からファイルまたはフォルダーを復元する前に、機能の制限に注意する必要があります。

- ゲストOS内でダイナミック ディスク タイプをリストアすることはできません。
- 暗号化されたファイルまたはフォルダをリストアした場合、暗号化属性は保持されません。
- ファイルまたはフォルダを暗号化されたフォルダにリストアすることはできません。
- 隠しファイルとフォルダーはファイル参照ページに表示されますが、フィルタリングすることはできません。
- 異なるオペレーティングシステムを搭載したゲスト間では、ファイルやフォルダを復元することはできません（別のVMに復元する場合、デスティネーションのOSタイプはソースのOSタイプと同じである必要があります）。

- NTFSファイルシステムからFATファイルシステムにリストアすることはできません。

NTFS形式からFAT形式にリストアしようとした場合、FATファイルシステムはWindowsセキュリティ属性をサポートしていないため、NTFSセキュリティ記述子はコピーされません。

- クローニングされたVMDKまたは初期化されていないVMDKからゲスト ファイルをリストアすることはできません。
- ファイルのディレクトリ構造はリストアできません。

ネストされたディレクトリからファイルを復元する場合、システムはディレクトリ構造ではなくファイルのみを復元します。ディレクトリ ツリー全体を復元するには、最上位のディレクトリをコピーします。

- vVol VMから別のホストにゲスト ファイルをリストアすることはできません。
- 暗号化されたゲスト ファイルはリストアできません。

## 仮想ディスクからファイルとフォルダを復元する

仮想ディスクから個々のファイルまたはフォルダを、元の仮想マシンまたは別の仮想マシンに復元します。これは、仮想マシン全体を復元する必要はなく、特定のファイルやフォルダだけがが必要な場合に便利です。

### 仮想ディスクからファイルとフォルダを復元する

仮想ディスクからファイルやフォルダを元の仮想マシン、または別の仮想マシンに復元します。仮想ディスクを元の仮想マシンに接続したくない場合は、代わりにプロキシ仮想マシンに接続することもできます。

#### 開始する前に

- ["ゲストファイルとフォルダを復元する際の要件と制限"](#)の前提条件と制限事項を確認してください。
- プロキシVMを使用してファイルとフォルダを復元するには、ファイルとフォルダの復元プロセスを開始する前に、プロキシVMが既に構成されていることを確認してください。
- ファイルやフォルダを復元する前に、NetApp Backup and Recoveryでソース仮想ディスクと宛先VMの認証情報を作成する必要があります。NetApp Backup and Recoveryでは、ファイルやフォルダを復元する際に、これらの認証情報を使用して仮想ディスクと宛先VMに対して認証を行います。

#### タスク概要

ファイルまたはフォルダの復元パフォーマンスは、復元対象のファイルまたはフォルダのサイズと、復元対象のファイルまたはフォルダの数という2つの要因に依存します。復元対象のデータセットのサイズが同じ場合、多数の小さなファイルを復元するには、少数の大きなファイルを復元する場合と比べて、予想以上に時間がかかる可能性があります。

リモートの仮想マシンに復元することは可能ですが（これはクロスVM復元と呼ばれます）、復元元と復元先のオペレーティングシステムは同じである必要があります。



1つのVMで一度に実行できる接続処理またはリストア処理は1つだけです。同じVMに対して並行して接続処理またはリストア処理を実行することはできません。



ファイルとフォルダの復元機能を使用すると、システムファイルや隠しファイルを表示および復元したり、暗号化されたファイルを表示したりできます。既存のシステムファイルを上書きしたり、暗号化されたファイルを暗号化されたフォルダに復元したりしないでください。復元操作中、ゲストファイルの隠し属性、システム属性、および暗号化属性は復元されたファイルには保持されません。予約済みパーティションを表示または閲覧すると、エラーが発生する可能性があります。

VMDKを元のVMに接続して、ファイルとフォルダをリストアします

仮想ディスクからゲストファイルとフォルダを元の（ソース）仮想マシンに復元します。

手順

1. NetApp Backup and Recoveryメニューから、[復元] を選択します。
2. ページ右上のワークロード一覧から\*VMware\*を選択してください。
3. 仮想マシンの一覧で、復元するファイルが含まれているVMの[アクション]アイコン...を選択します。
4. \*ファイルとフォルダの復元\*を選択します。
5. 復元するスナップショットを選択し、[次へ] を選択します。
6. 復元するスナップショットの場所を選択します。セカンダリ ロケーションを選択する場合は、リストからセカンダリ スナップショットを選択します。
7. \*次へ\*を選択します。
8. リストから、復元する必要があるファイルとフォルダーが含まれている仮想ディスクを選択し、**Next** を選択します。
9. *Guest virtual machine details* ページで、以下の操作を行います：
  - a. \*ゲスト仮想マシンの詳細\* セクションで、\*元の仮想マシン\* を選択して、仮想ディスクを元の仮想マシンに接続します。
  - b. \*ゲスト仮想マシンの認証情報\*セクションで、ソース仮想ディスクと宛先VMの認証情報をまだ保存していない場合は、\*認証情報の追加\*を選択し、WindowsまたはLinuxの認証情報を入力して、\*追加\*を選択します。



ソースVMと宛先VMは同じOSファミリーで動作している必要がありますが、OSのバージョンは異なっていても構いません。

- c. リストから、使用する仮想マシンのクレデンシャルを選択します。
- d. \*次へ\*を選択します。

NetApp Backup and Recoveryは、仮想ディスクを元のVMにアタッチし、隠しファイルを含むすべてのファイルとフォルダを表示します。Windowsゲストの場合、システムで予約済みのパーティションを含め、すべてのパーティションにドライブ文字を割り当てます。

ファイルブラウザーペインの近くにある虫眼鏡（検索）アイコンを使用して、ファイルやフォルダーを検索できます。パターンマッチングはサポートされていませんが、ファイル名または拡張子の一部に基づいてファイルやフォルダーを検索することは可能です。

10. 復元するファイルまたはフォルダを選択します。

復元対象として選択したファイルとフォルダは、画面右側のペインに一覧表示されます。

11. \*次へ\*を選択します。
12. 「復元先パス」セクションで、選択したファイルを復元する宛先VMのパスとファイルシステム上の場所を入力します：

- Windowsゲストの場合は、UNC共有パスを入力してください：
  - IPv4パスの例： \\10.60.136.65\c\$
  - IPv6パスの例： \\fd20-8b1e-b255-832e-61.ipv6-literal.net\C\restore
- Linuxゲストの場合は、ローカルファイルシステムのパス、またはリモートゲストのアドレスとパスを入力してください：
  - ローカルパスの例： /home/user/documents/file.txt
  - IPv4パスの例： 10.60.136.65:/home/user/restore/
  - IPv6パスの例： fd20-8b1e-b255-832e-61.ipv6-literal.net:/home/user/restore/

同じ名前のファイルが存在する場合は、上書きするかスキップするかを選択できます。

13. 「Post-restore-options」セクションでは、\*Disconnect guest session after the restore completes\*設定を有効にすることで、復元完了後にゲストセッションを切断することができます。これにより、仮想ディスクが切り離され、データストアがアンマウントされます。つまり、追加のファイルやフォルダの復元操作を実行する前に、ゲストセッションに再接続する必要があるということです。

14. \*復元\*を選択します。

ジョブ監視ページで復元の進行状況を確認できます。

**VMDK**をプロキシVMに接続して、ファイルとフォルダを復元します。

プロキシ VM (元の VM と同じvCenter上の別の VM) を使用して、仮想ディスクを元の VM に接続したくない場合にゲスト ファイルとフォルダを復元します。

手順

1. NetApp Backup and Recoveryメニューから、[復元] を選択します。
2. ページ右上のワークロード一覧から\*VMware\*を選択してください。
3. 仮想マシンの一覧で、復元するファイルが含まれているVMの[アクション]アイコン...を選択します。
4. \*ファイルとフォルダの復元\*を選択します。
5. 復元するスナップショットを選択し、[次へ] を選択します。
6. 復元するスナップショットの場所を選択します。セカンダリ ロケーションを選択する場合は、リストからセカンダリ スナップショットを選択します。
7. \*次へ\*を選択します。
8. リストから、復元する必要があるファイルとフォルダが含まれている仮想ディスクを選択し、**Next** を選択します。
9. *Guest virtual machine details* ページで、以下の操作を行います：
  - a. \*ゲスト仮想マシンの詳細\*セクションで：
    - i. **Proxy virtual machine** を選択して、仮想ディスクをプロキシ VM に接続します。
    - ii. リストから、プロキシ VM が配置されている vCenter、データセンター、およびデータストアを選択します。

- iii. プロキシVMとして使用するVMをリストから選択してください。仮想ディスクはこのVMに接続されます。選択したプロキシVMは右側のペインに表示されます。
- b. \*ゲスト仮想マシンの認証情報\*セクションで、ソース仮想ディスクと宛先VMの認証情報をまだ保存していない場合は、\*認証情報の追加\*を選択し、WindowsまたはLinuxの認証情報を入力して、\*追加\*を選択します。



ソースVMと宛先VMは同じOSファミリーで動作している必要がありますが、OSのバージョンは異なっても構いません。

- c. リストから、使用する仮想マシンのクレデンシャルを選択します。
- d. \*次へ\*を選択します。

NetApp Backup and Recoveryは、仮想ディスクをプロキシVMに接続し、隠しファイルを含むすべてのファイルとフォルダを表示します。Windowsゲストの場合、システムで予約済みのパーティションを含め、すべてのパーティションにドライブ文字を割り当てます。

ファイルブラウザーペインの近くにある虫眼鏡（検索）アイコンを使用して、ファイルやフォルダを検索できます。パターンマッチングはサポートされていませんが、ファイル名または拡張子の一部に基づいてファイルやフォルダを検索することは可能です。

10. 復元するファイルまたはフォルダを選択します。

復元対象として選択したファイルとフォルダは、画面右側のペインに一覧表示されます。

11. \*次へ\*を選択します。
12. 「復元先パス」セクションで、選択したファイルを復元する宛先VMのパスとファイルシステム上の場所を入力します：

- Windowsゲストの場合は、UNC共有パスを入力してください：

- IPv4パスの例： \\10.60.136.65\c\$
- IPv6パスの例： \\fd20-8b1e-b255-832e-61.ipv6-literal.net\C\restore

- Linuxゲストの場合は、ローカルファイルシステムのパス、またはリモートゲストのアドレスとパスを入力してください：

- ローカルパスの例： /home/user/documents/file.txt
- IPv4パスの例： 10.60.136.65:/home/user/restore/
- IPv6パスの例： fd20-8b1e-b255-832e-61.ipv6-literal.net:/home/user/restore/

同じ名前のファイルが存在する場合は、上書きするかスキップするかを選択できます。

13. 「Post-restore-options」セクションでは、\*Disconnect guest session after the restore completes\*設定を有効にすることで、復元完了後にゲストセッションを切断することができます。これにより、仮想ディスクが切り離され、データストアがアンマウントされます。つまり、追加のファイルやフォルダの復元操作を実行する前に、ゲストセッションに再接続する必要があるということです。
14. \*復元\*を選択します。

ジョブ監視ページで復元の進行状況を確認できます。

## アクティブな VMDK マウントセッションを表示する

ファイルやフォルダを復元する際に、アクティブなゲストセッションを表示します。これは、現在開いているセッションに接続されているVMDKを表示します。

手順

1. NetApp Backup and Recoveryメニューから、クローン を選択します。
2. ページ右上のワークロード一覧から\*VMware\*を選択してください。
3. \*Live disk mount sessions\*メニューを選択します。

開いているVMDKマウントセッションの一覧が表示されます。関連するバックアップ、ソースVM、マウントパス、その他の情報を確認できます。

## ゲストファイルの復元のトラブルシューティング

ゲスト ファイルをリストアしようとする、次のいずれかの状況が発生することがあります。

### ゲスト ファイル リストア セッションが空白

この問題は、ゲスト ファイルの復元セッションを作成し、そのセッション中にゲスト オペレーティング システムが再起動した場合に発生します。ゲスト OS の VMDK がオフラインのままになる可能性があるため、ゲスト ファイルの復元セッション リストは空白になります。

この問題を修正するには、ゲストOSでVMDKを手動でオンラインに戻します。VMDKがオンラインになると、ゲスト ファイル リストア セッションに正しい内容が表示されます。

### ゲスト ファイル リストアのディスク接続処理が失敗する

この問題は、ゲスト ファイルの復元操作を開始したときに、VMware ツールが実行されていてゲスト OS の資格情報が正しいにもかかわらず、ディスクの接続操作が失敗した場合に発生します。これが発生すると、次のエラーが返されます。

```
Error while validating guest credentials, failed to access guest system using specified credentials: Verify VMware Tools is running properly on the system and that the account used is an Administrator account. Error is SystemError vix error codes = (3016, 0).
```

この問題を修正するには、ゲストOSでVMware Tools Windowsサービスを再起動してから、ゲスト ファイル リストア処理を再試行します。

### ゲスト ファイル リストア セッションを中断してもバックアップが切断されない

この問題は、VM整合性バックアップからゲスト ファイル リストア処理を実行した場合に発生します。ゲスト ファイル リストア セッションがアクティブな間に、同じVMに対して別のVM整合性バックアップが実行されます。ゲスト ファイル リストア セッションが手動または24時間後に自動的に切断されても、セッションのバックアップは切断されません。

この問題を修正するには、アクティブ ゲスト ファイル リストア セッションから接続されていたVMDKを手動

で切断します。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。